

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)と戦略的な基礎研究について

平成27年5月19日

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
戦略推進部

新たな医療分野の研究開発体制の全体像

健康・医療戦略推進本部(内閣官房)

- 医療分野研究開発推進計画を策定
- 医療分野の研究開発の司令塔として総合的な予算要求配分調整を実施
- 調整費の用途を戦略的・重点的な予算配分を行う観点から決定

医療分野研究開発推進計画等を踏まえて課題を採択

研究者・研究機関に配分される研究費及び当該研究に係るファンディング機能を日本医療研究開発機構に集約し、管理
※ 研究開発の基盤整備に係る予算についても日本医療研究開発機構へ集約

総合的な予算要求配分調整

◎研究者の発意による
ボトムアップの基礎研究
科学研究費助成事業
約650億円

◎国が定めた戦略に基づくトップダウンの研究

・日本医療研究開発機構に文科・厚労・経産の3省の予算約1,200億円を集約化。
この他、調整費(500億円)のうち175億円を活用
・PD、POによるマネジメント
約1400億円

◎インハウス研究

国の研究機関
約750億円

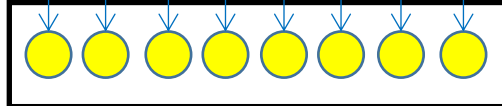
発掘したシーズをシームレスに移行

研究開発に係る基盤整備

臨床研究
中核病院等

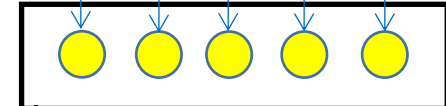
研究を臨床につなげるため、国際水準の質の高い臨床研究・治験の確実な実施

個別の研究費のファンディング



※ 大学、研究所等及び研究者

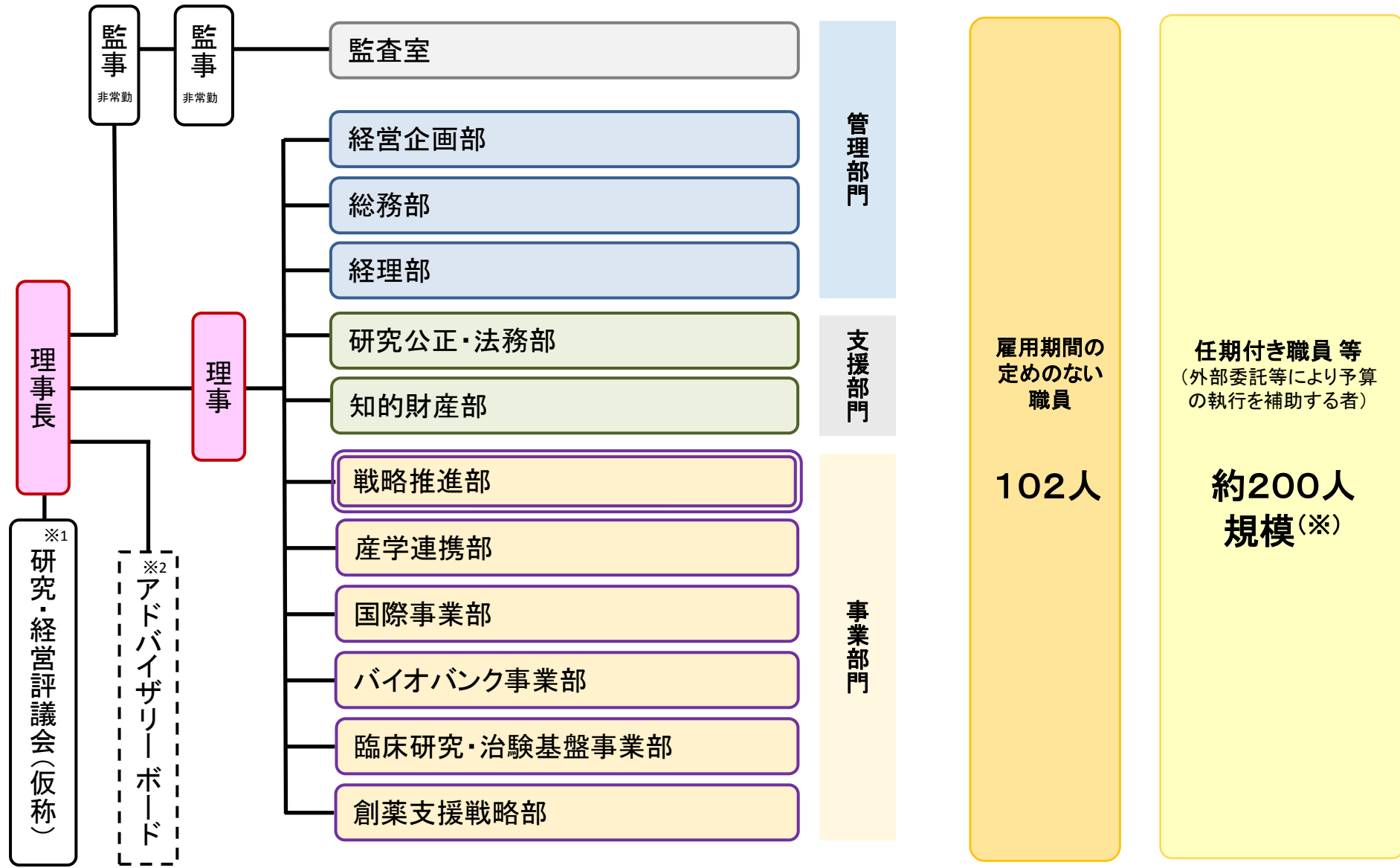
各研究機関への財源措置



※ 国立高度専門医療研究センター(NC)、理化学研究所、産業技術総合研究所、国立感染症研究所等

医療分野研究開発推進計画を踏まえた研究の実施

日本医療研究開発機構 (AMED) の組織体制について



※1 研究・経営評議会 …… 研究の実施を含む機構の運営に関する重要事項に関し、理事長に対し助言等を行う組織

※2 アドバイザーズボード …… 医療現場、産業界、研究者、患者等からの様々なニーズの把握のため理事長の下に置かれる会議

※ 事業の予算規模等に応じて、変動し得る。

日本医療研究開発機構(AMED)における研究開発のマネジメント —中長期目標より—

- 理事長の下にアドバイザリーボードを設置
→患者や医療現場、研究者、産業界等からのニーズの把握等
- 専門家によるシンクタンク機能の確保
→国内外の動向を把握、評価し、テーマを抽出
- ピア・レビュー方式の導入
→個別研究課題の選定
- PD、PO等による一元的かつ一貫したプロジェクトマネジメント

日本医療研究開発機構(AMED)の所管事業 —基礎から実用化へ—貫してつなぐプロジェクトの実施—

研究領域

- 医薬品創出
- 医療機器開発
- 革新的な医療技術創出拠点
- 再生医療
- オーダーメイド・ゲノム医療

疾患に対応した研究

- がん
- 精神・神経疾患
- 新興・再興感染症
- 希少・難治性疾患

その他

- 糖尿病などの生活習慣病、高齢者の生活の質を大きく低下させる疾患、小児・周産期の疾患など、多岐にわたる疾患に対応した研究
- **革新的先端研究開発支援事業**(JST「戦略的創造研究推進事業」より、医療研究に関わる研究開発領域を承継)

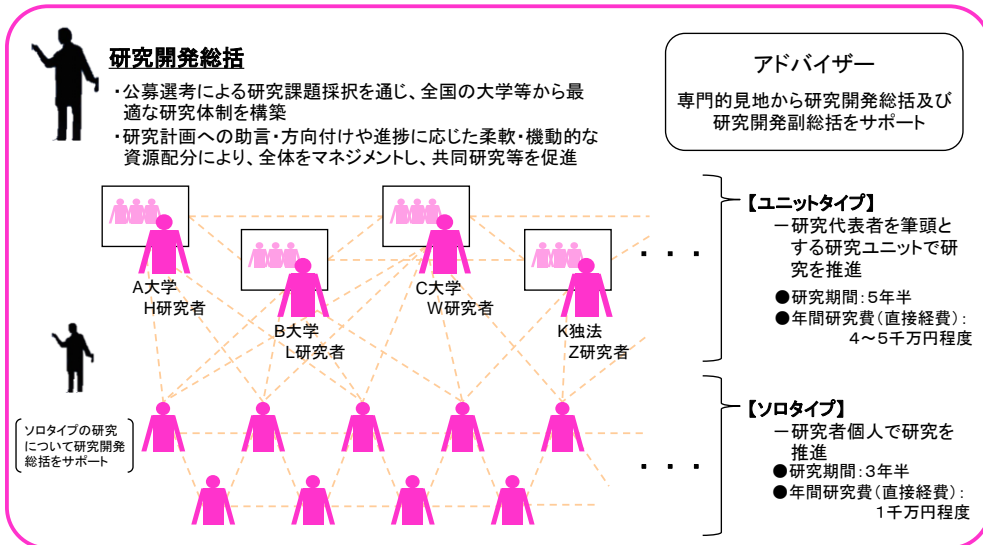
日本医療研究開発機構 (AMED) の革新的先端研究開発支援事業

概要

革新的な医薬品や医療機器、医療技術等を創出することを目的に、組織の枠を超えた時限的な研究体制を構築し、**画期的シーズの創出・育成に向けた先端的研究開発を推進**するとともに、**有望な成果について研究を加速・深化**する。

ユニットタイプ (AMED-CREST) の研究開発領域 (平成27年4月時点)

研究開発期間	研究開発領域	研究開発総括、研究開発副総括
平成25年度 ～平成32年度	疾患における代謝産物の解析および代謝制御に基づく革新的医療基盤技術の創出	清水 孝雄 (国立国際医療研究センター研究所 研究所長)
平成24年度 ～平成31年度	生体恒常性維持・変容・破綻機構のネットワーク的理解に基づく最適医療実現のための技術創出	永井 良三 (自治医科大学 学長)
平成23年度 ～平成30年度	エピゲノム研究に基づく診断・治療へ向けた新技術の創出	山本 雅之 (東北大学大学院医学系研究科 教授) 牛島 俊和 (国立がん研究センター研究所 分野長)
平成22年度 ～平成29年度	炎症の慢性化機構の解明と制御に向けた基盤技術の創出	宮坂 昌之 (大阪大学未来戦略機構 特任教授)
平成21年度 ～平成28年度	脳神経回路の形成・動作原理の解明と制御技術の創出	小澤 静司 (高崎健康福祉大学健康福祉学部 教授)
平成20年度 ～平成27年度	人工多能性幹細胞 (iPS細胞) 作製・制御等の医療基盤技術	須田 年生 (熊本大学国際先端医学研究機構 機構長)
平成20年度 ～平成27年度	アレルギー疾患・自己免疫疾患などの発症機構と治療技術	菅村 和夫 (宮城県立がんセンター研究所 特任部長)



※ 平成27年度は2つの研究開発領域を新規に発足予定。

戦略目標等の策定プロセスにおける医療研究への配慮について

戦略目標の策定プロセス

STEP1: 基礎研究を始めとした研究動向の俯瞰

我が国における研究動向の把握、世界における研究動向及びその中での我が国の参画状況等を把握。

- 研究動向の把握における医療研究への配慮(論文、特許等以外の評価指標の検討など)。

STEP2: 知の糾合による注目すべき研究動向の特定

STEP1の結果を用いて、最新の研究動向に関して知見を有する組織・研究者に対する意見を聴取。

- 意見聴取対象へのAMED関係者(科学技術顧問、PD等)の追加。

STEP3: 科学的な価値と社会経済的な価値の創造が両立可能な戦略目標等の決定

STEP2の結果を踏まえて、注目すべき先端的な研究動向に関する研究者と産業界などの識者との対話から、注目すべき研究動向に関する研究の進展等により、社会・経済に与える影響等を推量するワークショップ等を開催。

- 医療現場への出口を見据え、製薬企業や医療機器メーカーといった産業界だけではなく、医療従事者を加えたワークショップ等の開催。